

令和4年10月例会報告

- 日時 令和4年10月26日(水)
- テーマ 矢切の渡しと柴又帝釈天
- 集合 京成中山駅
- 集合時間 9時00分
- 参加者 36名
- 距離 14.6キロ
- 解散 14時55分(柴又帝釈天)
- 案内役 リーダー:長部 強、サブリーダー:鈴木 正一、榊原 慶子
- コース ①京成中山駅⇒②中山法華寺⇒③葛飾八幡宮⇒④真間山弘法寺⇒⑤里見公園(昼食)⇒⑥じゅん菜地緑地⇒⑦野菊の墓文学碑⇒⑧矢切の渡し(松戸側)⇒⑨渡し舟⇒⑩矢切の渡し(柴又側)⇒⑪柴又帝釈天⇒⑫京成柴又駅

今月は渡し船に乗ります！

秋晴れの爽やかな天候のもと、36名の皆さんが参加し、10月例会が開催されました。

ホームページで「佐倉歩こう会」を知り、参加したという方がいらっしゃいましたが、ホームページ担当者としてはうれしい限りです。

今回は、矢切の渡しから柴又帝釈天を巡るコースがメインとなりますが、渡し船に乗るのは初めてなので、とても楽しみです。

案内役のリーダーは長部さん、サブリーダーは鈴木さん、榊原さんです。

朝礼・準備体操の場所は、京成中山駅から参道を通った先にある「中山法華経寺」。鎌倉時代の中期に建てられた法華寺と本妙寺を併せた寺院で、境内には五重塔をはじめ、沢山の重要文化財が残され、桜の名所としても知られています。

市の文化財である高さ4.5メートルの大仏様(釈迦如来坐像)に見守られながら、準備体操を行い、いざ出発です。



大仏様を前に準備体操

真間山弘法寺の「涙石」とは

しばらく京成の線路沿いを歩くと、「葛飾八幡宮」に到着しました。この寺院は、平安朝の創建で、下総国総鎮守として歴代朝廷、平将門、源頼朝、徳川家康などからも崇敬が篤かったと言われています。

イチヨウの木の下で銀杏取りをする幼い園児たちを眺めながら、しばし一休みです。

次に立ち寄ったのが、「真間山弘法寺(ぐほうじ)」。奈良時代から続く由緒ある寺院で、境内の参道には約3,000本の桜があり、特に「伏姫桜」と呼ばれる樹齢400年のしだれ桜は有名です。

境内に辿りつくためには、斜度45度はあろうかと思われる急坂の石段を登らなければなりません。この石段、千個以上の石からできているのですが、何気なく登っていると参加者の一人から、途中の左端にある石が「涙石」と教えていただきました。他の石は乾いているのに、その石だけがなぜか濡れているのです。その時は聞き流してしまいましたが、後で気になり調べたところ、こんな「涙石伝説」がありました。

江戸時代、作事奉行、鈴木長頼が日光東照宮造営のために使う石材を船で運ぶ途中、市川付近で船が動かなくなり、やむなく弘法寺の石段に使用してしまいます。長頼は幕府からその責任を追及され、石段にて切腹。その時の無念の血と涙が沁み込んでいるという伝承です。小さな石段一つにもそんな悲しい伝説があるんですね。



葛飾八幡宮到着



弘法寺の石段を登る(涙石は?)

矢切の渡しと野菊の墓

里見公園で昼食を済ませ、いよいよ矢切の渡しに向かいます。

矢切の渡しと言えば、「つれて逃げてよ〜♪」の唄で有名ですが、純文学青年(?)であった私は、やはり伊藤佐千夫の「野菊の墓」が思い浮かびます。小説「野菊の墓」は、15歳の政夫と17歳の民子の幼い純愛模様が描かれています。中学進学のため矢切の渡しから船に乗る政夫、それを見送る民子、二人が再び会うことはありませんでした。矢切の渡しは二人の最後の別れの場所でした。

そんな感傷とは裏腹に、現在の船は手漕ぎではなく、エンジンで動きます。聞けば30人まで乗船可能とのこと。政夫や寅さんが乗った手漕ぎ船とは趣が異なりますが、それでも100メートル位しかない川幅をゆっくりと廻ってくれて、それなりに風情を感じることができました。

乗船料200円は安いと思いますよ。



矢切の渡しにて

柴又帝釈天へ

船を降り柴又帝釈天に向かう途中、多くの文豪も愛した川魚料理「川甚」(創業230年)の前を通ったのですが、なんと閉鎖になっているではありませんか。コロナの影響で、昨年 1月をもって閉店したとのことでした。

川甚は、「男はつらいよ」第1作で、寅さんの妹さくらと博の結婚披露宴の会場として使われた場所です。時代の流れとは言え、一抹の寂しさを感じます。

いよいよ本日の目的地、柴又帝釈天に到着しました。正式には「経栄山題経寺(きょうえいざん だいきょうじ)」という日蓮宗の寺院です。江戸時代初期の寛永6年(1629年)、先ほど訪れた「中山法華経寺」の僧によって開基されたと言われてます。大庭園(邃溪園)と彫刻ギャラリーが有名ですが、本日は時間の関係で見ることができませんでした。次回、ゆっくり訪れたいと思います。

お詣りを済ませ、例会は解散ですが、皆さん、参道でそれぞれお目当てのおみやげを買いに・・・。

私も高木屋老舗さんで名物草団子を買いました。筑波山麓の「よもぎ」の新芽が使われており、北海道産小豆を使った上品な甘さのあんとの相性抜群で、おいしくいただきました。

今回も楽しい例会でした。皆様、お疲れ様でした。

来月は、「志津の史跡を巡る」です。また、元気にお会いしましょう。(報告 伊香賀)



柴又帝釈天



名物草団子を買う